

# 美術館・博物館だより

**京都市美術館** 9:00～17:00【入館は16:30まで／月曜休館 ※】

「京都市美術館コレクション展第1期 井田照一 版の思考・間の思索」 4月7日～6月17日

京都の戦後美術を駆け抜けた美術家のひとりである、井田照一の新寄贈作品から、戦後のアートシーンを顧みる展覧会です。版画作品・ペーパーワーク・セラミック・ブロンズ作品など約400点を通して、作者が作品を創作する意味や、イメージを捉えようとする意識とイメージを表現する方法を探り、表現という人間の営みの証が展覧されます。

**京都国立博物館** 9:30～17:00【特別展示入館17:30まで、金曜日は19:30まで／月曜休館 ※】

☆平常展は2014年まで休館中

「王朝文化の華—陽明文庫名宝展—」 4月17日～5月27日

五撰家の一つである近衛家に伝えられた典籍・古文書などを収めている陽明文庫の名品を一堂に展示されます。藤原道長自筆の国宝「御堂関白記」や重文「藤原忠通書状」などの歴代の名宝、国宝「倭漢抄」下巻や国宝「大手鑑」などの名筆を含む、国宝8件・重文60件を中心に、これまでにない規模の特別展覧会をお楽しみいただけます。

**京都国立近代美術館** 9:30～17:00【入館は16:30まで／月曜休館 5月1日は開館 ※】

夜間開館 ～20:00 入館は19:30まで（2012年4月13日～8月17日までの金曜日 5月18日を除く）

「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」 4月7日～5月13日

代表作《サディスティッシュな空間》（1921・22）で知られ、ダンスパフォーマンスや演劇人としての舞台の仕事をはじめ、絵本のさし絵など、文化全般に大きな影響力を与えた、わが国「前衛」運動の騎手・村山知義（1901・1977）の多彩な活動の足跡をたどるはじめての回顧展。今回の展覧会では、1920年代に展開された美術の仕事を中心に、現存する作品と参考資料を一堂に会しながら、彼の活動した時代背景を伝える国内外の作品や資料とともに、その沸騰する創造のエネルギーが明らかにされます。700点を超える作品・資料を通し、「村山知義の宇宙」が展示されます。

「井田照一の版画」 5月22日～6月24日

1960年代から70年代半ば、日本の現代版画作品は質の高い表現と精緻な技術によって世界各地の国際版画展で注目を集め、多くの受賞を重ねました。なかでも井田照一（1941・2006）は、メディアとしての「版画」の概念とその可能性を極限まで探求し、日本の現代版画の展開に貴重な指針を提供した特筆すべき美術家と言えます。平成23年、近代美術館は約270点の井田照一版画作品の寄贈を受け、今回はその版画作品を中心に彼の作品業績を回顧、日本現代版画の展開に印された井田照一の足跡が再考されます。

**京都文化博物館** 10:00～18:00【特別展・別館入場は17:30まで、金曜日19:30まで／月曜休館 ※】

「宗廣コレクション 芹沢銈介展」 4月7日～6月3日

芹沢銈介（1895・1984）は、日本の伝統的な型染を基に芸術性の高い染色を創始した作家です。鮮やかな色彩と深い精神性をそなえた芹沢の仕事は、「型染」という語ではくくりきれず、1956年、重要無形文化財保持者（人間国宝）の認定にあたっては、「型絵染」という新しい分野が考案されました。郡上紬の制作者である宗廣陽助氏は、芹沢銈介の作品世界に深く惚れ込み、芹沢のデザインの本質を表す作品を収集してきました。今回の展覧会では、宗廣氏のコレクションから屏風、反物、のれん、染め絵、ガラス絵、素描など、芹沢銈介の代表作100余点が紹介されます。

**承天閣美術館** 10:00～17:00【入館は16:30まで／会期中無休】

「七類堂天谿展 一奕々たるその神彩—」 4月7日～6月10日

浮舟の没後500年余り。雪舟が水墨画を学んだ中国で、雪舟の再来として認められ、雪舟と同じ「天童第一座」の称号を与えられた日本人画家がいます。広島県尾道市在住の道釈画家・七類堂天谿画人（50歳）。道釈画とは、仏教・道教・神道における尊像や祖師像で、達磨・七福神・天神像などがあります。七類堂画人の筆先から生み出される達磨や七福神は、芸術に不可欠な個性が備わっている為、多くの人の心をひきつけます。相国寺は、若き日の雪舟が修行時代を過ごした寺で、七類堂画人は、日中の雪舟所縁の寺から称号と號を授けられたこととなります。この度、その相国寺の承天閣美術館で、国内初の個展が開催されます。

◆◆◆ ※祝日・振替休日は開館、その翌日が休館 ◎祝日・振替休日は開館 ◆◆◆

**細見美術館** 10:00~18:00【入館は17:30まで/月曜休館(5月1日休館) ※】

「酒井抱一と江戸琳派の全貌」前期:4月10日~22日、中期:4月24日~30日、後期:5月2日~13日

名門譜代大名の次男として江戸に生まれた抱一は、後半生を画家として過ごしました。その画風は宗達、光琳ら、伝統的な京都の琳派に強く憧れながら、江戸後期らしい新たな好みや洗練を加えており、近年では抱一の確立した新様式を「江戸琳派」と称しています。本展では、浮世絵に始まる抱一の琳派傾倒以前の初期作から、最も得意とした華麗で写実的な花鳥図の数々、出家後に手掛けた仏画の優品など、抱一の多岐にわたる作品が展示されます。また抱一の有力な弟子、鈴木其一、池田孤邨らを始め、百年以上にわたる江戸琳派の活躍の軌跡も辿ります。

「夏季収蔵品展 美を愛でる 京を愉しむ」5月19日~7月8日

平安時代以来、長きにわたり日本文化の中心であった京都、そこは人々の憧れの地であり、美の都でもありました。貴族社会で磨かれたみやびの文化、富裕な町衆の洗練された美意識、歴史を重ねた名所、季節のうつろいに彩られた風光、そして華やかな祭礼など、都のすべてが多彩な芸術の源泉となり、優れた作品を生み出してきたのです。今回、細見コレクションの中から都の面影を今に伝える作品が採り上げられます。「京の四季一遊びとかざりー」、「京の絵師一若冲から雪佳までー」、「王朝のみやび和歌と物語ー」の3つの章を通して、美的都市・京都にまつわる多彩な美術工芸品の魅力をお楽しみ頂けます。

**茶道資料館** 9:30~16:30【入館は16:00まで/月曜休館】

「春季展 四季の画賛と待合のしつらえ」3月27日~6月10日

画賛とは、一般的には絵に書き添えた文字や文章を指しますが、茶の湯においては、掛物の分類として賛のある絵を「画賛」「画賛物」と呼びます。画賛は、本席で用いるものから待合で用いるものまで、崇高なイメージのものから余り堅苦しくないものまで、その性格は様々です。展覧会では、こうした多様な画賛を展示するとともに、待合掛けの画賛には煙草盆、汲み出し茶碗、手焙などを取り合わせて待合のしつらえも展示されます。

**楽美術館** 10:00~16:30【入館は16:00まで/月曜休館 ◎】

「楽歴代の名品 秘蔵の長次郎を見る 利休所持・利休の婿 万代屋宗安伝来黒樂茶碗『万代屋黒』」3月10日~6月24日

長次郎が利休の侘茶の思想をくみとり、手捏ねの赤樂茶碗、黒樂茶碗を制作した桃山時代天正年間以来、今日まで400余年、樂家はその伝統を受け継ぎ、それぞれの時代の茶の湯精神を反映しながら様々な茶の湯の焼き物を制作してきました。春期特別展では、初代長次郎から15代吉左衛門まで、楽歴代の代表作が一堂に展覧されます。今回は、利休の娘婿である万代屋宗安所持の知られざる名碗、長次郎作黒樂茶碗と本願寺伝来として名高い道入作黒樂茶碗「唐衣」の秘蔵の2作が特別公開されます。

「手にふれる樂茶碗鑑賞会」5月13日(11:00、13:00、前もって予約が必要です。)

美術館の茶室において楽歴代の作品を手にとって鑑賞する事ができます。(呈茶はございません。)

**北村美術館** 10:00~16:30【入館は16:00まで/月曜・祝日の翌日休館 ※】

「野遊の茶」3月10日~6月10日

酒井抱一筆 葵祭競馬図、宗達下絵光悦書 断簡、唐物 色絵四神龍、一入作黒樂 銘 あやめ 覚々斎箱等、野点に用いられる茶碗や茶道具等が展示されます。

**野村美術館** 10:00~16:30【入館は16:00まで/月曜休館 ※】

「春季特別展『哉かな』の美」前期:3月10日~4月22日 後期:4月24日~6月10日

「かな」は、漢字の草書体から生まれた日本特有の文字で、平安時代中期、10世紀に完成したといわれます。「かな」の特徴は、柔らかな曲線で漢字の楷書にはない優雅さやゆったりとしたリズム感を表現できることにあります。茶の湯では、こうした古筆を掛物として使い、めでてきました。今回は、名物切とよばれる平安時代の書から、鎌倉時代の藤原俊成・藤原定家の書を経て、江戸時代の「寛永の三筆」とよばれる近衛信尹、本阿弥光悦、松花堂昭乗の書、後水尾天皇や近衛家熙の書まで、和歌を中心として展示されます。

◆◆◆ ※祝日・振替休日は開館、その翌日が休館 ◎祝日・振替休日は開館 ◆◆◆

**堂本印象美術館** 9:30~17:00【入館は 16:30 まで/月曜休館 ※】

「暮らしのすがたー時代・社会」 3月16日~5月27日

堂本印象は大正期から昭和 30 年代にかけて、古今東西の人々の生活様式に目を向けた作品を描きました。その内容は、中国やインド、ヨーロッパにわたる多様な風俗に及びます。なかでも、第二次世界大戦は、急激な社会変動をもたらした、このことに対する疑問が印象に新たな表現世界を追求する契機となりました。古今東西の世相を映し出した作品を通し、時代や社会を見据える印象のまなざしに迫る展示です。

**泉屋博古館** 10:00~17:00【入館は 16:30 まで/月曜休館 (5月1日休館) ※】

「春季展 I ガンダーラの美術とシルクロードの絵画ー平山郁夫と樋口隆康、二人のコレクションを中心にー」  
3月17日~5月20日

パキスタン西北部のガンダーラでは、2~3 世紀にギリシャ・ローマの影響を受けた独自の仏像や菩薩が誕生しました。その造形はシルクロードを通して中国、日本にも大きな影響を与えました。本展では、そうしたガンダーラ彫刻の優品約 50 点とともに、平山郁夫画伯のシルクロードをモチーフとした絵画や、樋口隆康氏が隊長を勤めた京都大学中央アジア学術調査隊の資料等も展示されます (期間中一部展示替あり)。

**何必館・京都現代美術館** 10:00~18:00【入館は 17:30 まで/月曜休館 ◎】

「村上華岳展」 4月28日~6月10日

この度「開館 30 周年記念 村上華岳展」が開催されます。何必館を支えてきた理念は、既成の絵画の枠組みを越えて常に自由な魂を持ち続けていた日本画家、村上華岳の精神に通じています。菩提樹下で座禅修行する若き日の悉多太子の気品あふれる画は、生きるための重大な問題を問いかけてくれます。この展示では、絵画や書などの作品の中から厳選された村上華岳の晩年の作品約 40 点が展覧されます。華岳の作品と出会う最上の空間として設計された何必館にて、その珠玉の作品が楽しめます。

**美術館「えき」KYOTO** 10:00~20:00【最終入館は 19:30 まで/最終日 17:00 閉館 (入館 16:30) 会期中無休】

「『いーとんの大冒険』から『こびとづかん』まで なばたとしたか絵本原画展」 4月26日~5月20日

絵本『こびとづかん』『いーとんの大冒険』を生み出した、イラストレーターなばたとしたかさん。なばたさんの描く登場人物は、どこか奇妙で不思議な存在ばかり。でも、なぜか身近に感じてしまうのは、そこにかわいいだけじゃないリアルさが、存在しているからかもしれません。今回は「こびとシリーズ」の絵本原画をはじめ、「こびと」の生態や特徴などを詳しく解説した「こびと大研究」コーナー、絵本ができるまでの貴重な資料やデッサンなど、なばたとしたかさんが描く作品の世界が一堂に楽しめます。

「リスベート・ツヴェルガー 絵本原画展」 5月23日~6月17日

『不思議の国のアリス』や『オズの魔法使い』、『おやゆびひめ』など誰もが知るおとぎ話の世界を、繊細な筆遣いで描く絵本画家リスベート・ツヴェルガー(1954~)。卓越したデッサン力と洗練された色彩感覚で描かれる幻想的な世界は、子どもから大人までお楽しみ頂けます。ツヴェルガーは、2002 年に日本で展覧会を開催し、大きな反響をよびました。今回は、デビューから 35 年を記念して開催されるファン待望の原画展です。代表作の『賢者のおくりもの』、『オズの魔法使い』をはじめ、昨年邦訳版が刊行された『ノアの箱舟』まで絵本原画約 150 点が一堂に集結し、ツヴェルガーが紡ぎだす優雅で透明なファンタジーの世界をお楽しみ頂けます。

**角屋もてなしの文化美術館** 10:00~16:30【入館は 16:00 まで/月曜休館 ※】

「春季企画展 うたげの中国陶磁器展」 3月15日~7月18日

饗宴の場である角屋には、江戸時代からの「献立帳」が伝来しており、料理内容に加え「南京」の文字が目立ちます。過去の調査によると、角屋所蔵の陶磁器は国産に加えて中国製が約 4 割を占めており、その大半が景德鎮窯で焼かれたものとされます。大皿・小皿・大鉢・小鉢・向付・猪口・蓋物・水注・瓶等多種多様で、当時の流行に合わせ、もてなしの道具として買い求めたことがうかがえます。角屋伝来の中国陶磁器の名品を一堂に集め、揚屋で催された「うたげ」の場に供されたもてなしの趣向の一端を感じられるよう企画された展示です。

◆◆◆ ※祝日・振替休日は開館、その翌日が休館 ◎祝日・振替休日は開館 ◆◆◆

**清水三年坂美術館** 10:00～17:00【入館は16:30まで／火曜休館、臨時休館の場合あり ※】

「印籠百展」 2月24日～5月20日

「印籠」はもともと印鑑や朱肉を入れておく為の箱でした。その後、腰に提げて持ち歩くようになり、さらに武士達が戦場に出かける際、中に薬を入れるようになったと言われています。江戸時代になると町人の間でも流行し、旅の必需品として、また、豪華な蒔絵で装飾された印籠が男女のお洒落を演出する小道具として使われるようになりました。幕末・明治になると印籠は美術品と化し、一人で数十点の印籠を集める人も多く出てくるようになります。今回の展覧会では、世界中で最も高い評価を受けている、柴田是真、白山松哉をはじめ、観松齋（飯塚桃葉）、塩見政誠、山本春正、原羊遊齋といった名工達の最高傑作を中心に、清水三年坂美術館所蔵の名品が展示されます。

**南座** 9:30～19:00 【休館日9日、10日、11日、30日、31日、6月1日】

「坂東玉三郎展」 5月3日～6月24日

南座全館が美術館となり、舞台衣裳、秘蔵コレクション、ヒストリー、“美”に彩られた玉三郎ワールドが楽しめます。各階ロビーでは、玉三郎の数多ある豪華衣裳の中でも特に選りすぐりの衣裳を、また舞台写真やポスター、さらにはプライベートを含む玉三郎の歴史を振り返る写真パネルが展示されます。また、展示特別企画として、“楽屋拝見”と題し、玉三郎の楽屋も再現されます。本人お手製の茶碗や秘蔵コレクション、舞台上で使用した貴重な小道具など、坂東玉三郎の美意識をあらゆる角度から堪能できます。

※5月・6月の公演期間中は入場時間に制限がございます。下記を参照ください。

5月12日～27日 開場時間 9:30～13:00、17:30～19:00（13:00～17:30は入場不可）

6月2日～24日 開場時間 9:30～14:00、17:30～19:00（14:00～17:30は入場不可）

ただし、5月18日、6月8日、15日、22日は開場時間 9:30～17:00（17:00～19:00は入場不可）

◆◆◆ ※祝日・振替休日は開館、その翌日が休館 ◎祝日・振替休日は開館 ◆◆◆